



概要版

# 西東京市文化財保存・活用計画

平成 28 年 3 月 西東京市教育委員会



## 西東京市の歴史文化

本市は、武蔵野台地の中央に位置しており、この地を拓き、豊かな生活をめざし、努力や工夫を重ね暮らしてきた人々の多様な歴史文化が存在します。古くは4万年前の旧石器時代から人々が闊歩し、4～5千年前の縄文時代中期には関東有数の大集落が下野谷遺跡に現れます。その後、一定のいまだ不明確な期間を置きながら、地域ごとに様々な歴史文化が育まれてきました。縄文時代に地域の拠点となった下野谷遺跡に残る大集落、江戸の流通の一角を担った青梅街道と田無宿、日本初の野外博物館である民族学博物館等、戦後の都市近郊の庶民生活を象徴するひばりが丘団地等、それぞれの時代に地域の歴史や文化の要となる役割を担ってきました。

## 計画策定の背景と目的

本市は、西東京市文化財保護条例の制定や郷土資料室の設置、市内最大の遺跡である下野谷遺跡<sup>したのや</sup>の一部を公有地化し、下野谷遺跡公園を開園するなど、文化財保護を進めてきました。

また、2013年（平成25年）6月、西東京市文化財保護審議会から、文化財を確実に保存し未来につなげるために、「西東京市文化財保存・活用計画」策定に言及した「西東京市における文化財保護のあり方について（建議）」が提出されました。

本計画は、こうした動きを背景に、「西東京市第2次基本構想・基本計画」及び「西東京市教育計画」に基づくまちづくりの方向性との整合を図りながら、本市の歴史文化及び文化財を自然環境や景観等周辺環境を含めて総合的にとらえ直し、新たな価値の創造と魅力あるまちづくりを推進するための基本理念及びその実施プログラムとして策定するものです。

## 計画期間

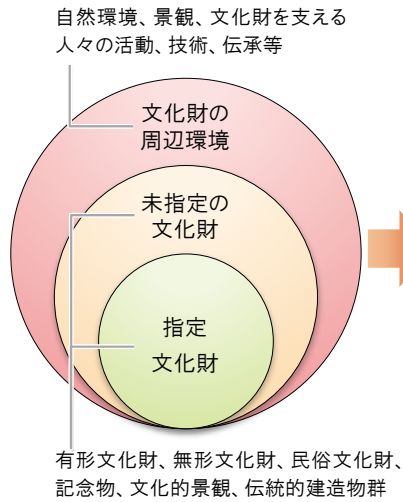
西東京市文化財保存・活用計画の計画期間は10年間とします。ただし、第1期の計画は、西東京市第2次基本構想・基本計画との整合を図ることとし、平成28年度から平成35年度までの8年間の計画期間とします。



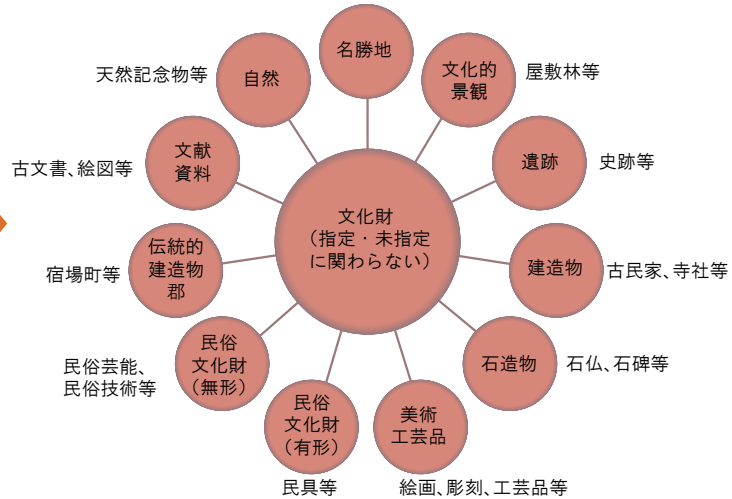
# 文化財の範囲

西東京市文化財保護条例では、特に重要な文化財を西東京市指定文化財として位置付けています。加えて、地域の歴史、文化等の正しい理解のためには、地域に存在する歴史文化の様々な表出形態を「文化財」として、指定・未指定に関わらず幅広くとらえ、歴史的、文化的、地域的関連性等に基づいて周辺環境も含めた一定のまとまりをもった文化財群を総合的に把握していくことが重要です。

## 【文化財の考え方】



## 【文化財の要素】



# 西東京市の文化財を取り巻く環境と課題

## 文化財の保存・活用

歴史文化、文化財を市民が共有し、自らの郷土の財産として大切に思えるよう、育てていくことが求められています。

社会環境の変化、価値観の多様化、少子高齢化等により、文化財を保護していくことが困難な事例が増加し、指定等一定の保護を受けていない文化財が散逸、消失する傾向にあり、着実に文化財を保護する必要があります。

### これまでの文化財保存・活用の取組

- 指定文化財制度に基づく価値の高い文化財の確実な保護
- 国史跡「下野谷遺跡」の確実な保存と活用
- 文化財の継続的な調査・研究
- 郷土資料室での文化財の管理・活用
- 市民や市民活動団体との協働による取組  
縄文の森の秋まつり  
文化財の普及啓発事業 等

### 文化財保存の課題

- 文化財の対象、範囲、分類の検討及び、計画的で総合的な調査・確認
- 指定文化財制度の充実、登録文化財制度等の導入検討
- 下野谷遺跡の計画的な保存・活用
- 文化財を通じた地域に対する意識醸成

### 文化財活用の課題

- 学校教育、学習機会の充実
- 文化財に関する情報や活用の方策の共有
- 市民活動団体等との連携・活動支援の充実

### 文化財の保存・活用のための施設の課題

- 郷土資料室を中心とした、環境整備や情報発信・展示の充実
- 調査、展示、収蔵、市民の学習拠点等、文化財保護のプラットフォームとなる施設検討

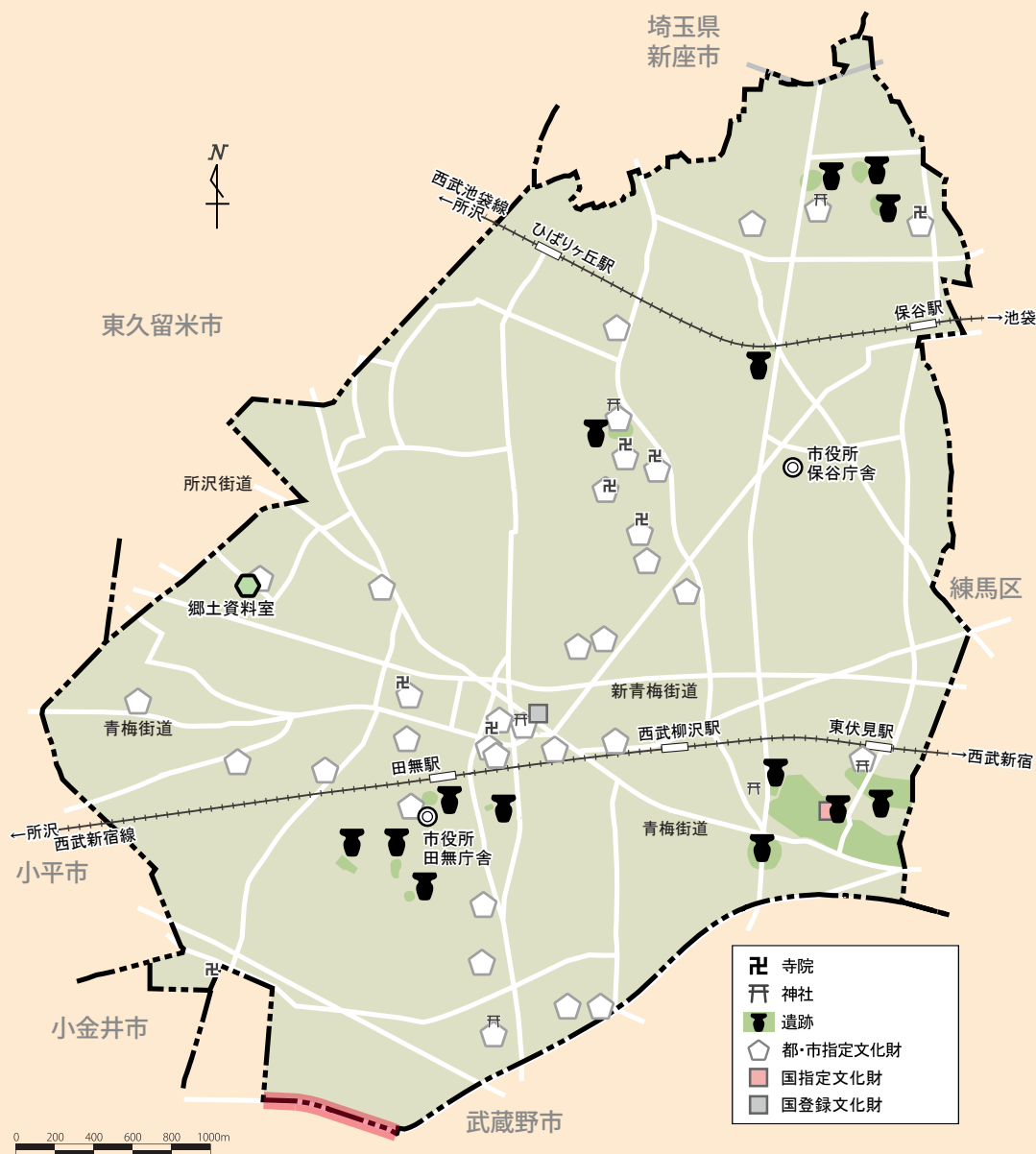
# 西東京市の指定・登録文化財等と関連文化財群のストーリー

本市の指定文化財等は55件、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は14件となっています（平成28年3月現在）。そのほか、石仏・石造物、寺院及び神社等様々な文化財が存在しています。

## 指定及び登録文化財等の内訳

	有形文化財				無形文化財	史跡	名勝	天然記念物	計
	建造物	絵画・彫刻・工芸品	古文書	歴史資料	民俗芸能				
国指定	0	0	0	0	0	2	1	0	3
都指定	1	0	0	0	0	0	0	0	1
市指定	1	9	4	29	2	2	0	2	49
国登録	2	0	0	0	0	0	0	0	2
計	4	9	4	29	2	4	1	2	55

## 指定・登録文化財と遺跡等の分布



つながりのある文化財の物語を読みとくことで、西東京市の歴史文化をより深く知ることができます。あなたも魅力ある身近な地域のストーリー（文脈）を見つけてください。



下野谷遺跡キャラクター  
したのやムラのしーた・のーや

## 関連文化財群のストーリー例

### 関連文化財群①

#### 武蔵野台地を拓いた人々



4～5千年前に武蔵野台地の自然を切り拓き、水や森の自然の恵みとともに、1,000年間にわたり下野谷(したのや)ムラに暮らした縄文人の「ふるさと」の物語です。

下野谷遺跡は、市街地に残された南関東最大級の縄文時代中期の大集落遺跡の一つであり、眼下には石神井川が流れ、周囲には、今も水とみどりと歴史が息づいています。

### 関連文化財群②

#### 水と集落



初期集落は、鎌倉～室町時代に石神井川や白子川の源流となる地下水のたまりやすい場所に形成されています。江戸時代には、上水や用水が開削され、新田開発等により近郊農村として発展するとともに、屋敷林や薪炭林が作られ「武蔵野」の景観が形成されました。現在の都市農業が営まれる風景につながる、土と生きる人々の物語です。

### 関連文化財群③

#### 町場と生産場をつなぐ大動脈



江戸時代、漆喰の材料となる石灰の輸送を契機に「青梅街道」が開かれ、馬の乗り継ぎや旅人の休息の場として「田無宿」が成立しました。田無宿は輸送や人々の往来で賑わい、武蔵野の中心地のひとつとして栄えました。明治期には郵便輸送路ともなり、経済は急拡大しました。その後、高度経済成長期の車両交通を受け、新青梅街道の開通を経た現在でも、青梅街道沿いに残る社寺や古い民家が、町場の歴史文化を物語っています。

### 関連文化財群④

#### 村の祈りと誇り



所々で発見された板碑（石で作った卒塔婆のようなもの）は、中世には、地域ごとに異なる信仰を持つ人々が暮らしていたことを語っています。その後も寺院や神社、「講」等が人々を取り結び、それぞれの信仰を大切に受け継ぎました。また、江戸時代には名主を中心に互助や文化に優れたまちづくりも行われました。市内に残る石造物や年中行事などに見ることができる村の祈りと誇りの物語です。

### 関連文化財群⑤

#### 近代化するまちと産業と暮らし



大正期と昭和初期の鉄道開通に伴い、新興住宅地の開発と教育機関等の誘致が進み、市内に立地する大学施設の原型が形づくられました。日中戦争以降には、中島飛行機等の軍需工場が作られ、空襲では、田無駅前の人々等が被害を受けました。高度経済成長期には、ひばりが丘団地に代表される大型団地の建設等が進み、現在に到っています。

### 関連文化財群⑥

#### 武蔵野の人々の学問・文化・文学



石碑や古い文書から、江戸時代末期には寺子屋が、明治期には学制による学校が設置され、現在の小学校へとつながっていることがわかります。

「むさしの文芸」が興った歴史もあり、また、昭和初期には、渋沢敬三、高橋文太郎らにより、日本初の野外博物館である「民族学博物館」（現在の国立民族学博物館の前身）が開かれ、長く「民族学の拠点」となりました。学問や文化・文学の物語です。

※関連文化財群の説明は、最終ページをご覧ください。

## 基本理念

### 縄文から未来につなぐ文化財 守りはぐくむ、ふるさと西東京市

市内には、武蔵野台地を拓き、努力や工夫を重ね暮らしてきた人々の多様な歴史文化があります。

歴史文化をつなぐ貴重な文化財を、その周辺環境も含め整備し、確実に保存することによって、歴史文化を知り、学び、その魅力や価値を誇りとするとともに、「ふるさと」西東京市という意識に支えられた暮らしをより豊かに輝くものとしていきます。

歴史文化を  
知り、学ぶ

魅力や価値を  
誇りとする

暮らしを  
より豊かに  
輝かせる

#### 目標1

##### 西東京市の歴史文化を知る

文化財を認知し、調査・研究の視点により新たな価値づけを行う。

施策の柱  
1

#### 目標2

##### 西東京市の歴史文化を守る

文化財の持続可能な保存・活用に関する制度や周辺環境を整備する。

施策の柱  
2・4

#### 目標3

##### 西東京市の歴史文化を伝え、未来につなぐ

文化財の魅力を広く市内外に発信し、将来にわたって全ての人々がその価値を享受できる環境を整える。

施策の柱  
3・4

#### 目標4

##### 文化財を、人をつなぎ、育てるまちづくりに活かす

文化財を活かして、多様なバックグラウンドを持つ人々をつなぎ、新しいふるさと意識を醸成する。

施策の柱  
3

#### 目標5

##### 下野谷遺跡の計画的な保存・活用を行う

下野谷遺跡の保存・活用の取組を重点施策として位置付け、計画的に推進する。

施策の柱  
5

# 文化財保存・活用の施策の柱と取組の展開

## 施策の柱1 文化財の調査・研究

施策の方向 1-1 文化財の計画的で総合的な調査の推進

施策の方向 1-2 文化財の記録



## 施策の柱2 文化財の保存管理の推進

施策の方向 2-1 文化財の保存管理対策の推進

施策の方向 2-2 文化財の担い手の育成・支援

施策の方向 2-3 文化財保護制度の充実



## 施策の柱3 文化財の普及啓発及び活用の推進

施策の方向 3-1 文化財情報の公開・発信

施策の方向 3-2 文化財を活用した学校教育等の充実

施策の方向 3-3 生涯学習と連携した文化財に親しむ機会づくり

施策の方向 3-4 市民の参加による文化財普及啓発の推進

施策の方向 3-5 文化財を活かした地域の魅力づくり



## 施策の柱4 文化財の保護環境の充実

施策の方向 4-1 都市計画と連携した文化財保存・活用の環境づくり

施策の方向 4-2 文化財の保護・学習拠点の整備・充実

施策の方向 4-3 新たな保存・活用拠点の設置検討

施策の方向 4-4 推進体制の充実

施策の方向 4-5 関係する機関・団体との連携強化



## 施策の柱5 下野谷遺跡の保存・活用

施策の方向 5-1 史跡の継続的な調査・研究

施策の方向 5-2 史跡の継続的な保存・管理

施策の方向 5-3 史跡整備と展示施設の設置

施策の方向 5-4 史跡の活用の推進



## 「歴史文化基本構想」とは

本計画は、文化財保護のあり方として国の示す「歴史文化基本構想」の考え方を踏まえて策定しています。

### ● 「歴史文化基本構想」の定義

地域に存在する文化財を、指定・未指定に関わらず幅広くとらえて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想。

### ● 対象範囲

「歴史文化」とは、文化財とそれに関わる様々な要素とが一体となったものを指しています。

文化財に関わる様々な要素とは、文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承等であり、文化財の周辺環境と言い換えることができます。

※詳しくは文化庁ホームページ『「歴史文化基本構想」について』をご覧ください。  
<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/rekishibunka/>

## 「関連文化財群」とは

本計画では、歴史文化をより身近に感じ、文化財等の認知度を高めることを目的として、一定のまとまりをもつ「関連文化財群」と、そのつながりによってわかりやすく本市の歴史文化を示す「ストーリー」を例示しています。

この「関連文化財群」は、歴史文化基本構想において、地域に存在する歴史文化の様々な表出形態を「文化財」として、指定・未指定に関わらず幅広くとらえ、歴史的、文化的、地域的関連性等の周辺環境も含めた一定のまとまりをもった文化財群のこととされています。また、これらの文化財をつなぐ関連性を、地域の歴史文化の特性をわかりやすく伝えることのできる「ストーリー」として示すことが推奨されています。

文化財をこのように単体ではなく総合的にとらえることは、本市の歴史文化の理解を深めることに役立つばかりでなく、市内で文化財の保存・活用に関わっている個人や団体が、専門分野を超えて共通の認識を持つことにつながり、活動の連携等、より効果的な文化財の保存・活用の推進が期待できます。



下野谷遺跡キャラクター  
したのやムラのしーた・のーや  
©T&K/西東京市

(表紙写真)

上段左 : ①東大生態調和農学機構 本館前の桜

上段右 : ②尉殿神社 狛犬

下段左 上 : ③下野谷遺跡公園

中 : ④田無神社と神輿

下 : ⑤東伏見稻荷神社

下段右 : ⑥下野谷遺跡出土土器

(①～⑤撮影：西東京市の歴史を守る会写真班)

(⑥撮影：山下 喜一郎 氏)

## 西東京市文化財保存・活用計画 (概要版)

平成 28 年 3 月

西東京市教育委員会 教育部社会教育課

〒202-8555 東京都西東京市中町一丁目5番1号

電話 042-438-4079 (直通)